

日本テスト学会 会員の皆様

平素は日本テスト学会の活動に際し、多大なるご支援を頂戴し、誠にありがとうございます。本日は、本年度の日本テスト学会各賞に関するご連絡をさせていただきました。

日本テスト学会の各賞は、通常、大会時に開催される総会において、発表・表彰を行わせていただきましたが、本年度の大会開催が中止になりましたことに伴いまして、本年度の各賞の受賞者をメール及び学会ホームページにて、お知らせさせていただきます。

今回の表彰対象は、日本テスト学会賞・日本テスト学会論文賞・日本テスト学会功労賞となります。なお本年度は大会が中止となりましたため、日本テスト学会大会発表賞はございません。

日本テスト学会表彰選考委員会（服部環表彰選考委員長）からの各賞の推薦に基づき、理事会の承認を経まして、本年度の日本テスト学会賞・日本テスト学会論文賞・日本テスト学会功労賞が以下のように決定しました。

【日本テスト学会賞】

荒井 克弘 氏（大学入試センター名誉教授）

受賞理由：

荒井克弘氏は、1979年7月に大学入試センター助手に着任して以来40年間、直接に、また間接的に、共通第1次学力試験、大学入試センター試験のあり方を見守ると共に、教育社会学的視点から入学試験への追究を続けてきた。その成果は、藤井光昭・柳井晴夫・荒井克弘共編著『大学入試における総合試験の国際比較』（多賀出版、2002年）、荒井克弘・橋本昭彦共編著『高校と大学の接続—入試選抜から教育接続へ—』（玉川大学出版部、2005年）などにまとめられている。2009年から、大学入試センターに復帰し、センター試験の問題作成と研究を統括する立場で、センター試験の円滑な実施をリードすると共に、高大接続改革の動きの中で、入試研究の視点から種々の報告書をまとめるなど、有意義な発信を積み重ねてきた。それは、社会に対して、入試というものの適切な方向付けにもつながっており、引いては、本学会の発展にも寄与するものである。センター試験は2020年度大学入学者選抜試験で一区切りが付けられたこの時点において、40年にわたって積み重ねられた氏の功績を称えることは、まさに時宜に適ったものである。

【日本テスト学会論文賞】

坪田 彩乃 氏、石井 秀宗 氏（名古屋大学）

論文名：「多枝選択式問題作成ガイドラインの実証的検討」

受賞理由：

項目作成のガイドラインが困難度や識別力に与える影響について検討するとともに、テス

ト項目の欠点 (Flaw) に受検者が気付くかどうかという点に着目した独自性の高い研究である。これまで、多肢選択式問題を作成する上で必要となる様々なノウハウは、問題作成者の経験に頼ってきたところが多いが、本研究では、実践的な知を言語化してガイドラインとして示しており、その成果は、これまでの経験主義から脱却するための一つの道筋を示していると考えられる。また、日本の大学生が項目作成のガイドラインについてどのような知識を有しているのかという、日本人のテストリテラシーについて検討した研究と捉えることもでき、今後の研究の発展が期待できる。

【日本テスト学会功労賞】

林 規生 氏 (株) EduLab

受賞理由：

林規生氏は2003年の日本テスト学会創設時から現在に至るまで、学会事務局のまさに柱として本学会を支えてきた。日本テスト学会が林規生氏の優れた運営管理能力に支えられ、学会の各種委員会および研究大会がここまで発展してきたことは一目瞭然であり、林規生氏は日本テスト学会功労賞受賞者に最も相応しい。

以上の通りでございます。

なお、現在のところ2021年3月に「日本テスト学会賞記念講演」の開催を予定しており、各賞の表彰式は、記念講演とあわせて催行させていただく予定です。記念講演では、日本テスト学会賞の荒井克弘氏と、日本テスト学会論文賞の坪田彩乃氏による記念講演を予定しております。記念講演に関しましては、詳細が確定次第、改めてご連絡させていただきたく存じます。

以上、どうぞよろしくお願い申し上げます。